

第六節 災害・救済

[1] 川角村洪水損所諸入用調

熊野町 織田信家所蔵

(表紙)

延享貳年

安芸郡川角村洪水ニ付川土手損所調諸入用積

丑ノ六月

正の坪
一川土手壱ヶ所

坪数六拾壹坪

此諸入用

一杭木百三拾五本

一した百三拾五把

一調夫百五拾貳人五分

長四拾五間
根置貳間半
馬ふみ九分
高サ八分

但壱坪貳人五分宛

久保田
一川土手壱ヶ所

坪数五拾四坪

此諸入用

一杭木百貳拾本

一した百貳拾把

一調夫百三拾五人

わたノ前
一川土手壱ヶ所

坪数拾三坪

此調入用

一杭木三拾本

一した三拾把

一調夫貳拾五人

一井手床壱ヶ所

坪数四坪半

此調諸入用

一杭木三拾六本

一した三拾六把

長四拾間
根置貳間半
馬ふみ九分
高サ八分

長拾間
根置間半
馬ふみ九分
高サ八分

長三間
高サ壱間半

一調夫貳拾式人

但壹坪五人宛

覚

安芸郡川角村

杭木ノ三百貳拾壹本

但拾本ニ付壹匁二分宛

一、赤麦壹石 但御神石として

代銀三十匁三分

此銀六十匁八匁

但百姓腰林ニ而雜木買調申度奉存候

右者社倉為養イ与、五ヶ年之間無利御貸シ被為成被下候ハ、右利足を以、当村永々社倉之儲ニ仕、下方難

したメ三百貳拾壹把

洪之節助命ニ仕度旨奉願候処、願之通拝借御赦免被仰

代銀四拾八匁壹分五厘

但壹把ニ付壹分五厘宛

付、難有忝仕合ニ奉存候、然上者当丑三月ノ收貸シ、

銀ノ八拾三匁四分五厘

格式嚴重ニ仕、巳六月ニ至候ハ、右元麦急度上納可

夫合三百三拾四人五分

申上候、為其私共証文仕、差上申所、仍如件

右ハ当村川土手・井手床損所調入用積り如此ニ御座候

以上

宝曆七年丑三月十四日

延享貳年丑ノ六月

庄屋

庄屋

太兵衛

大兵衛

㊦

後藤金次右衛門様

岡島禎藏様

加判矢野村小池
役人 五左衛門

八島久兵衛様

上ひかへ

弥七郎

細川文右衛門様

[2] 社倉御神石借用に関する書付

織田家「諸事上り控帳」

右之状受取申候而、三月十五日ニ五左衛門殿与相議之上ニ而、矢野村六右衛門と申人之麦、石五拾七匁ニ買申候、

壹石壹斗九升三合

内七升欠り

覚書

長 与平様

池田与右衛門様

森岡半右衛門様

右御屋敷御代官中様御取次ニ而、社倉麦御神石御下ヶ被遣候

宝曆八年

社倉麦老石式斗

寅年有麦

宝曆十一年

社倉麦式石式升六合

巳年有麦

[3] 大風による倒壊家屋報告

織田家「万上り跡控之帳」

覚

一本家老軒

梁四間
桁三間

太七

但し 間口式間

間敷三間

一同 老軒

梁三間
桁式間

彦四郎

但し 間口老間半

間敷三間

一同 老軒

梁四間半
桁三間

藤次郎
弥はん

但し 間口式間半

間敷四間

一同 老軒

梁三間半
桁式間半

源助
源七

但し 間口式間半

間敷三間

一同 老軒

梁式間半
桁式間

加左衛門

但し
間口壹間
間数貳間

一 灰屋壹軒

梁三間
桁式間半

弥
久右衛門

×

右者去秋大風ニ付吹倒レ申候、人別本家梁・桁・間口・間数、灰屋共書出し申様ニと被仰付ニ付、相改相

違ひ無御座候間、如此ニ御座候、已上

〔宝曆八〕
とら二月
庄屋 太兵衛

わり庄屋矢野村

孫太郎殿

〔4〕 拝借銀証文書付

織田家「万上リ跡控之帳」

御拝借奉仕銀之事

一 銀八拾五匁

安芸郡川角村

右之銀為作食御貸シ被遊、慥ニ受取難有可奉存候、然ル上ハ御返上之儀、当十月切、元リ共急度御返上可仕

候、若ふそく仕候ハ、いか様共可被仰付候、為其証文仕、指上申所如件

〔宝曆八〕
寅二月

庄屋

太兵衛

岡島禎藏様

覚

安芸郡川角村

一 当為作食米銀八拾五匁御貸シ被遊可被下候ハ、去

暮ふそく銀之内へ差上ケ申度奉存候間、何とそ以御

慈悲上を右銀御拝借被遊可被下候ハ、難有可奉存

候、為御願之書付差上申候、以上

〔宝曆八〕
寅二月

庄屋

太兵衛

岡島禎藏様

〔5〕 前年拝借赤麦元利とも返却の件につき報告書

「織田信家文書」

覚

安芸郡川角村

II 資料編

辰之麦式石四斗八升貳合

一赤麦式石九斗七升八合 已分

外ニ五斗 太兵衛出し麦共

右者社倉為元儲御恩借仕、到當已六月、返納麦元利共能干立、繩俵共念入取納仕、元利共無遲滞取立、私方へ預り置申候間、御勝手次第御見届可被下候、尤年凶穰見合之上、当麦作仕附ケ申刻、種麦を借貸シ申遣可仕候ニ付、何卒無^レ敷 仕候様ニ、奉願入候、為後日証文判形如件

宝曆十一年己七月 庄屋

太兵衛

御屋敷

右之書付已年分を午帳面へ控置申候

覚 安芸郡川角村

已^元麦 一赤麦式石九斗七升八合

内

石五斗 (当年かり主無御座候ニ付元麦ニ而御座候)

元麦壹石四斗七升八合 一同壹石七斗七升三合 午年元り共

右之社倉麦〔以下記述なし〕

〔6〕 困糶に関する報告書付

織田家「諸書附上り控」

覚 安芸郡川角村

一御困糶五石六斗 但三斗五升入

此俵数拾六俵

右ハ宝曆拾一年分御困糶取立、無相違被^マ藏ニ納候、私樋ニ預り置申候、為其証文差上申候、以上

(宝曆十二) 己霜月十五日

太兵衛

御三人様

〔7〕 社倉救麦配布に関する報告書

織田家「諸書附差上申控帳」

社倉麥行帳

一人數五人 内(三人大人 一人三合宛 難洪百姓 貳人小人 同 貳合宛 吉兵衛印)

此麥三斗九升 一ヶ月分

一同耆人 男大人

同九升

外ニ六升 病氣ニ付遣ス三十一日

一同四人 内(三人大人 一人小人 同 清兵衛印)

同 三斗三升

一同七人 内(三人大人 一人小人之分、壹合壹勺宛 同 彦四郎印)

同 四斗七升

一同三人 内(耆人大人 貳人小人 同 浮世過 六兵衛印)

同 貳斗貳升

一同六人 内(三人大人 三人小人 同 小百姓 源右衛門印)

同 四斗五升

一同三人 内(耆人大人 貳人小人 同 岩三後家印)

同 貳斗壹升

一同三人 内(三人大人 一人小人 同 小百姓 今平跡印)

同 貳斗四升

一同七人 内(四人大人 三人小人 同 源七印)

同 五斗四升

同 三石貳斗

内(貳石五斗壹升 難洪ニ遣ス 六斗九升 来亥麥ニ而取立申事)

右之通、行遣シ申候

右願之通、社倉麥被遣、当春之助、命相凌申候、難有

奉存候、為其判形仕候、以上

明和三年戊三月

長百姓 与兵衛印

九郎兵衛印

太郎左衛門印

五郎左衛門[㊦]

役人

四郎右衛門殿

^{〔明和三〕}
戊三月七日

庄屋

四郎右衛門

長 貞平様

森岡半右衛門様

池田与右衛門様

武内徳太夫様

井沢次太夫様

〔8〕 作食米代銀借用の願い書付

織田家「諸書附差上申控帳」

覚

安芸郡川角村

一 当村百姓共去暮以来世渡難渋仕居申候処、唯今迄者
兎や角く仕、漸ク相凌申候得共、次第ニ前作ニも趣
候処、右之仕合ニ御座候得者、作食手当テ必至と無
御座、難儀至極仕候、此時之儀ニ御座候得者、御上
江御歎キ申上、何ニ而も御拜借被為仰付被下候ハ、
当春之難渋相凌、前作等も仕附ケ、御屋敷御憐愍之
程難有可奉存旨、難渋百姓共歎キ出申候、御時節柄
恐多御願ニ御座候得共、為作食米代銀、少々成共御
貸シ被為遣被下候ハ、難渋百姓江貸渡シ、耕作精
出シ、重々難有仕合ニ可奉存候、為其乍恐以書付を
奉願上候、以上

〔9〕 川角村社倉麦の増長、算用の報告請書

織田信家所蔵

(表紙)

天明六年

安芸郡川角村社倉麦増長算用指引御請書

午七月

本上り控

御高百六拾壹石三斗

安芸郡

一物人数百五拾三人

川角村

一麦拾石六斗六升六合

当午二月社倉麦成就取斗之儀

内

百九人

相応ニ相暮、救麦遣し及不申

もの共

残四拾四人

内

拾老人

男拾五歳以上六拾以下、働仕

者一日老人ニ付式合宛

此糧麦三石九斗六升

拾三人

女右同断一日老人ニ付老合式

勺つゝ

此糧麦式石八斗八合

式十人

男十五歳以下六拾歳以上、働

得不仕者共一日老人ニ付老合

宛

此糧麦三石七斗八升

メ拾石五斗四升八合

前年霜月メ翌年四月迄

六ヶ月救麦之辻

御願申上候節指上ケ之帳面石

数之通

内

式斗六合

已夏取立有麦但御神穀ニ当ル

壹石八升

去巳年 御上様メ御追加

壹石八升

御給主様メ右同断

メ式石三斗六升六合

元利メ 四石五斗九升四合

内 去巳年差引

式斗九升

鼠喰干欠り 升取給共

残テ 式石五斗四升九合式勺

八石三斗

当春銘々追加取替麦増長

惣メ拾石八斗四升九合式勺

内

拾石五斗四升八合

前年霜月メ翌年四月迄

六ヶ月救麦之辻引

残テ 三斗壹合式勺

此分全ク永貸麦相当リ申候

右社倉麥算用指引如此ニ御座候、麦念入干立組々々元
立種共立会石数相改、備蔵ニ相納置申候
当分時節見合、貸附候節者御窺申上、貸付申積リニ御
座候、以上

午七月

庄屋

四郎右衛門 ㊦

社倉頭取役長百姓

弥三郎 ㊦

長百姓

九郎三 ㊦

安芸郡御役所

〔10〕 困糶貸下げに関する書付

申付覚

織田家「御触書写帳」

其村々昨年凶作、彼是難汝之趣ニ茂相聞候ニ付、格別
を以御困糶御貸し被下候之条、早々挽立、下方一同へ
貸し遣し可申候、返納方左之通相心得可取計者也

一 糶四石壹斗 川角村
一同 壹石 府中村
一 五石壹斗

但シ返納方、当秋出来米を以、差出可申事
〔寛政元〕
酉七月 村方

御役所

府中村

川角村

右村之役人共

〔11〕 水難につき社倉麦貸居え許可の達

海田町役場所蔵「郡方諸御用跡控」(寛政八)
態申遣ス

一 社倉麦 貳拾八石壹斗 矢賀村

一同 五拾四石四斗八升貳勺 戸坂村

一同 三拾石貳斗 奥海田村

一同 九石五斗 下瀬野村

一同 拾貳石 上瀬野村

一同 拾壹石四斗

熊野村

百四拾五石六斗八升貳勺

右村々社倉麥当取立之儀、水難ニ付穀類等流失致シ、其外濡麥ニ相成、前段之通当取立難相成趣ニ付、当年之所ハ貸居之儀歎出候趣無余儀筋ニ付、聞届差免候条、此旨村々江可申聞候、勿論来巳年定之通取立可申、夫迄之内社倉見込之貯糶并作替之粟黍類貯置、社倉御趣意相備候様厚取計せ可申者也

〔寛政八〕

辰十月

寺川十左衛門

南部藤右衛門

割庄や 三人

[12] 安芸郡村々社倉麥貸渡しにつき願書・許可書

海田町役場所蔵「郡方諸御用跡控」

覚

一 当郡村々社倉麥之内、此節三步二貸渡シ呉候様村々役人共ハ願出申候ニ付相しらへ申候処、願之通無余義支ニ御座候ニ付、何卒御赦免被遣被下候ハ、貸渡

申度奉存候間、此段早々御聞届被為遊、三步二貸渡、御赦免被為仰付可被下候、為其書付差上申候、

以上

〔寛政八〕

辰十二月

割庄や

アキ郡

五人

御役所

此儀歎出候趣承届候、尤此節御步行目附見分被差出候間、相濟村々ハ夫々貸渡之儀可申付候支

十一月十二日

[13] 安芸郡村々洪水損所修復夫の覚（寛政八）

海田町役場所蔵「郡方諸御用跡控」

覚

一千三百四拾人	中野村
一八百拾人	畑か村
一八百三拾五人	奥海田村
一千貳百七拾人	海田市
一三百人	舟越村

一貳千四拾人 矢野村

一七〇貳拾人 下瀬野村

一三〇七拾人 上瀬野村

一貳千五拾人 熊野村

一六百人 燒山村

一四拾五人 川角村

一九拾人 押込村

一毛損多分之儀ニ御座候ニ付
村業相叶不申候

矢賀村

一六百人 戸坂村

一 壹万千七拾人

右者当夏洪水ニ付、村々損所先達而御見分被為成遣候
通御座候所、然而大造之儀ニ付、右入用銀・夫之内村
業ニ相叶可申処、私共見込を以考之所申上候様被為仰
付奉畏候、当年之儀ハ何角段々奉備御苦労、普請積・
入用夫之内先達而も四歩方御取替被為成遣、御患之程
役人共ハ勿論、下方一統千万難有仕合奉存候、然ル上

者如何体ニ仕候而も此余御苦勞筋省略仕候様仕度奉存
居申候処、普請入用銀・夫ハ勿論田地自分仕戻し等も
殊外大造之儀ニ付、村々ニおゐても甚以難波至極仕居
申候ニ付、格別之業も相叶不申候へ共、私共段々申値
試凡考合仕候処ニ而ハ、先前段之員數、夫方之内ニ而
村々ハ相勤せ候様被為仰付被下候而も可然哉と奉存候

[14] 年賦銀取立の願書

織田家「諸書附控帳」

覚 安芸郡川角村

一 去ル^(文化十三)子年諸作不熟ニ付、百姓共難波仕申候ニ付、御
歎キ申上候処、町銀御口入被為成遣、銀貳百目御貸
シ被遣、是迄年々利上仕候得共、先達而茂御歎申上
候通、当年ハ利留メ年賦銀ニ御取立被遣候ハ、難
有仕合ニ奉存候、為其書付ヲ以奉願上候、以上

〔文政四〕 巳三月 庄屋

四郎右衛門

岩崎彦八様
富長甚五郎様

覚

一 銀貳百目

利足月一歩

右者去ル子年諸作不熟ニ付、百姓共極難波仕、依之御貸付銀之儀、御敷き申上候処、町銀御口入銀御聞届被為遣、難有仕合奉存候、尤此迄元銀得御返仕不申ニ付、 利足計指上申候、当年も利足指上置申候、尤返済之儀者、来午霜月限り利足 返済可仕候、為後日証文奉指上候、以上

〔文政四〕
已極月

庄屋

四郎右衛門

村方御役所

〔15〕 困糶干立てに関する報告書

織田家「諸書附控帳」

覚

安芸郡川角村

一 御困糶五石四斗八升 寛政八辰年分

此正米貳石七斗四升

一 同老石三斗六升 文政二卯年分

此正米六斗八升

一 同老石三斗六升 文政三辰年分

此正米六斗八升

右之通早立、念入積替仕、私藏所ニ納置申候、為御注進書付指上申候、以上

〔後欠〕〔文政四〕

〔16〕 洪水損所に関する書付

織田家「諸書附控帳」

覚

一 田方式町七反老畝

内 四反五畝

砂入

貳町貳反六畝

水損

一 川土手百八間

越切ル

右者当月八日、洪水損所ニ御座候間、御見分被成被為遣候ハ、難有仕合ニ奉存候、為其乍恐御書付御注進

申上候、已上

〔文政四〕
八月十日

四郎右衛門

村方御役所

野村孫兵衛殿

老通上ル

安芸郡

御役所

三通差上申候

覚

安芸郡川角村

一去ル〔文政四〕已八月洪水ニ付、当村川土手損所郡夫御普請夫

積帳相調差出シ、度々追書付ヲ以願出申候得共、今

以御免許無御座、何卒早々相調ひ候様ニ、御給主様

もおせかし被成候間、何分御免許被成被遣候様ニ、

厚ク御願申上候、御尋ニ付、又々書付指上申候、以上

〔文政心〕
未十一月

野村孫兵衛殿

覚

安芸郡川角村

一文政四年已八月、洪水川土手損所ニ御座候ニ付、夫

積リ等仕、御願申上候、是迄御免許無御座候、尤田

地損所之分ハ、御給主様ヲ夫飯米御貸シ被為遣候ニ

付、相調申候、土手損所之処被捨置御座候ニ付、村

役人共申合せ、高歩成銀借リかへ、夫飯米ニ仕、土

手半方相調居申候得共、未々本出来仕不申候、前段

ニ申上候通り、大銀殊ニ高歩成銀子之儀ニ御座候得

者、利上ケ等も得仕不申候、百姓共甚難波仕、気毒

千万ニ奉存候ニ付、右御願申上候通、御免許御座候

迄、下歩ノ替銀老貫目御貸下ケ被遣候ハ、難有仕

合奉存候、左候得者、先達而之借用銀、利上程成共

仕、余者夫飯米ニ仕、川土手本出来ニ仕度奉存候、

捨置申候而者、田地仕戻候者御給主様〔マツ、不、欠カ〕へ申分も無御

座候間、何卒御取□被遣候而、下歩成銀老貫目、御

貸被為遣候ハ、□難有土手□百姓一統、敷出申

候ニ付、不得止事御苦勞之儀、御願申上候、何卒御

御番組衆中様

聞届ケ被遣候様ニ、奉願上候、以上

申極月

庄屋 四郎右衛門

長百姓 吉藏

覚

割庄屋上瀬野村

野村孫兵衛殿

安芸郡川角村

一元銀五百目

但利足月八朱

右者村方差間ニ付、御拝借仕候処実正ニ御座候、御返

弁之儀者、当霜月限り元利共無滞御返納可仕候、依而

割庄屋野村孫兵衛加印証文、差上申候、以上

文政八年酉三月 庄屋 四郎右衛門

長百姓 吉藏

年行司 弥七

同 吉右衛門

加印組合割庄屋 野村孫兵衛

安芸郡

一去ル已・戌兩年洪水ニ付、川土手損所数々御座候

而、夫積リ仕願出申候処、御免許無御座、尤役人共

借りかへ仕、夫方八百三拾老人遣、半調ニ仕置申候

故、少シ成洪水ニ而も田地損所ニ相成申、左候而者

御給主様へ申上候品も無御座、往古々田地仕戻し申

儀者、御給主様を御調来り土手仕戻し、郡方弥調来

リ之形合も御座候ニ付、御免許無御座様子、御給主

様へ御窺申上候処、往古を調来りし土手、相調不申

候而者田地損所ニ相成、左候得者御屋敷様之愁ニも

相成一事ニ付、早々願出候而相調申様ニ頼入、可然

様ニ被仰付候、元来御承知被遣候通、小村殊ニ難涉

之村柄ニ御座候得者、村業ニ相叶不申候間、何卒御

慈悲を以、郡夫等之内ヲ以相調申候様、御聞届被為

遣候ハ、末々難有仕合奉存候、為其又々書付ヲ以

奉願上候、以上

〔文政十二〕
子五月

庄屋

四郎右衛門

野村孫兵衛殿

此分下り

覚

一当村川替入用銀御願申上候処、郡方ヨ□御免許も御座候得共、全ク不足銀壹貫百六拾八匁先達而御願申上置候処、今以御免許も無御座候得共、此度三四日取懸り掘心見仕申候処、思之外仕リ申埒明申候ニ付、此余九百目之銀ニ而者無相違相調可申ニ奉存候間、何卒御慈悲之上ヲ以、正銀九百目御下ケ被為遣候ハ、末々難有仕合奉存候、為其書付ヲ以奉願上候、以上

〔文政十二〕
極月二日

御役所

役人

覚

安芸郡川角村

一当村川替入用銀之内、銀壹貫九百目利足年六朱之御定、廿ヶ年賦御貸下ケ被為遣、難有仕合ニ奉存候、就而者村方百姓共へ貸渡し之儀申值候処、百姓共一統申出候儀、此銀借用仕候而、廿ヶ年賦御返納之処、甚困リ入居申候、此外数々拝借用銀等御座候上へ、年々重て之出銀仕事、如何哉と奉存候間、何卒無利廿カ年賦ニ而、御貸被為遣候ハ、難有仕合奉存候、甚以恐多御歎ニ奉存候得共、為其書附ヲ以奉願上候、以上

〔文政十二〕
丑極月

御役所

役人

〔17〕 早損につき才覚銀貸付に関する書付

熊野町 佐々木忠夫家「永代日記」
態申遣ス

熊野・苗代・栃原・焼山・押込五ヶ村、当年諸作早損

ニ付難渋百姓共御年貢通ひ尻未進多分出来いたし、取立方差間候趣ニ付、借用銀之儀書付を以敷出候所、全体不得止未進ニ相成候得者、追揚ニいたし、不足者村闔キニ取計可申請合ニ候へ共、変年より未進ニ相成候儀ニ候間、地合難渋之訳ニも無之候ニ付追揚ニも難取計、且追揚取計候共当年柄村闔之義さし間候由にて、彼是段々歎出候様無余義様子に相見エ候得共、当年御場合柄御世話筋之義ハ甚以不容易に有之、乍去近年村々とも御年貢上納方出精もいたし、当年稀之早損にて小内不得止次第者相違も無之儀者相見エ候ニ付、格別を以厚ク申談左之通り才覚銀貸付方聞届遣し候条、此旨相心得、人別貸付方ハ勿論何角不締り之儀無之、返納方定メ之通手違ひ無之様、手堅ク取計可申もの也
一銀拾六貫八百目

五ヶ村早損ニ付貸付、利足年五朱、来ル寅年ハ
五ヶ年賦返納

八貫五百目	熊野村
三貫目	苗代村
壹貫貳百目	栃原村
貳貫七百目	焼山村
壹貫四百目	押込村

以上

熊谷文之進 ⑩
〔嘉永六〕
丑十二月九日

野田七郎右衛門

熊野村庄屋	市郎左衛門
苗代村庄屋	金藏
栃原村庄屋	才兵衛
焼山村庄屋	来助
同	雄助
押込村庄屋	源兵衛
右五ヶ村	与頭共
組合割庄屋	野村孫兵衛